

U.S. Indicators

発表日：2019年8月2日(金)

米国 19年7月雇用統計

～減速傾向だが、依然として巡航速度を上回るペース～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

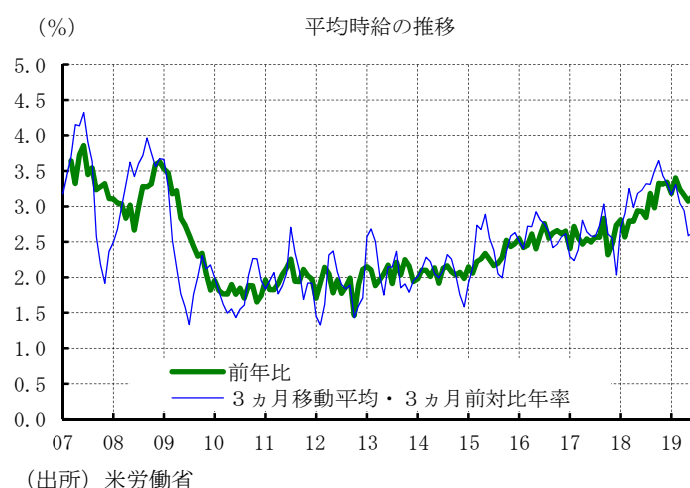
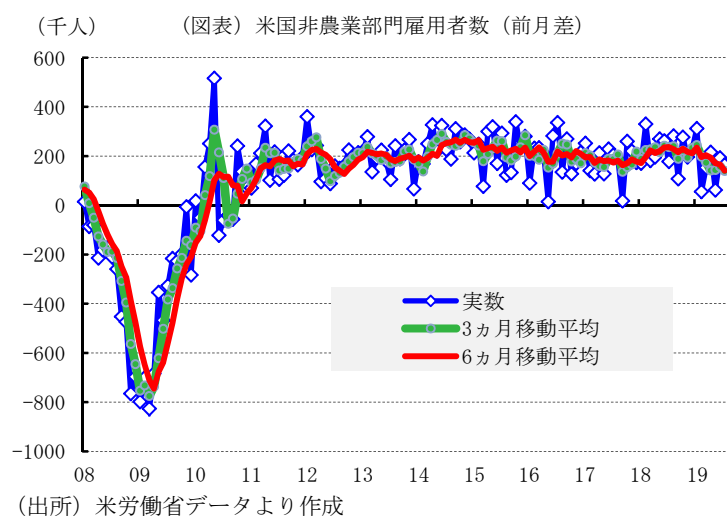
米国雇用統計

		失業率	非農業部門雇用者数								平均時給		労働時間	労働投入量		
			全体	製造業	建設業	サービス関連業				前月比	前年比	前月比		年率※		
			前月差	前月差	前月差	全体	小売業	狭義サービス	政府							
四半期																
17. 1Q	4.6	173	13	26	129	▲11	110	8	0.6	2.6	33.6	0.3	1.4			
17. 2Q	4.4	190	8	17	158	▲14	129	9	0.6	2.5	33.7	0.6	2.4			
17. 3Q	4.3	136	16	16	102	▲3	72	2	0.7	2.7	33.6	0.4	1.5			
17. 4Q	4.1	218	26	30	161	▲1	125	9	0.5	2.5	33.7	0.7	2.8			
18. 1Q	4.1	228	22	36	162	9	107	7	0.8	2.7	33.7	0.5	2.0			
18. 2Q	3.9	243	25	28	183	▲4	148	15	0.8	2.9	33.8	0.6	2.6			
18. 3Q	3.8	189	15	23	147	▲6	100	14	0.9	3.0	33.8	0.5	1.8			
18. 4Q	3.8	233	25	15	190	6	155	▲3	0.8	3.3	33.7	0.4	1.7			
19. 1Q	3.9	174	7	16	149	▲6	126	8	0.8	3.3	33.7	0.5	1.8			
19. 2Q	3.6	157	6	18	133	▲11	117	5	0.7	3.1	33.6	0.2	0.6			
月次																
1811	3.7	196	27	5	167	33	100	▲4	0.3	3.3	33.7	▲0.2	1.3			
1812	3.9	227	20	16	187	▲6	178	3	0.4	3.3	33.7	0.5	1.7			
1901	4.0	312	17	56	232	9	163	15	0.1	3.2	33.8	0.2	1.7			
1902	3.8	56	8	▲23	75	▲14	69	10	0.4	3.4	33.6	▲0.3	2.2			
1903	3.8	153	▲3	15	140	▲15	146	0	0.2	3.2	33.7	0.5	1.8			
1904	3.6	216	3	34	179	▲15	145	21	0.1	3.2	33.6	▲0.2	1.1			
1905	3.6	62	2	1	57	▲12	73	▲19	0.3	3.1	33.6	0.1	1.0			
1906	3.7	193	12	18	164	▲7	133	14	0.3	3.1	33.6	0.2	0.6			
1907	3.7	164	16	4	149	▲4	112	16	0.3	3.2	33.5	▲0.2	0.7			

19年7月の非農業部門雇用者数（季節調整済み、事業所調査）は、前月差+164千人（6月同+193千人）と小幅減速したが、市場予想中央値の前月差+165千人と概ね一致した（筆者予想前月差+162千人）。政府が前月差+16.0千人（6月同+14.0千人）と加速した一方、民間が前月差+148千人（6月同+179.0千人）と減速した。医療、製造業などが堅調も小売、情報、鉱業などが減少した。また、7月の失業率（U3、家計調査）は、3.7%（前月3.7%）と市場予想中央値3.6%（筆者予想3.6%）を上回ったものの、労働参加率が上昇しており、いわゆる“良い横ばい”といえよう。

基調をみると、3ヵ月移動平均（5、6、7月）では、非農業部門が前月差+140千人（前月同+157千人）、民間部門が同+136千人（前月同+152千人）と減速した。また、より一時的な変動の影響を排除できる6ヵ月移動平均の非農業部門（19年2-7月）は前月差+141千人（前月同+165千人）と減速した。トランプ政権の強硬な通商政策や中国の自国企業の保護政策に伴う貿易戦争の継続、世界景気の減速、金融環境の引き締め等の影響により徐々に減速している。しかし、米国内需要の堅調を背景に労働市場は良好さを維持していることを背景に、雇用は過熱感の強い増加ペースから、巡航速度（前月差+10万人程度）に向けて緩やかに鈍化していると判断される。

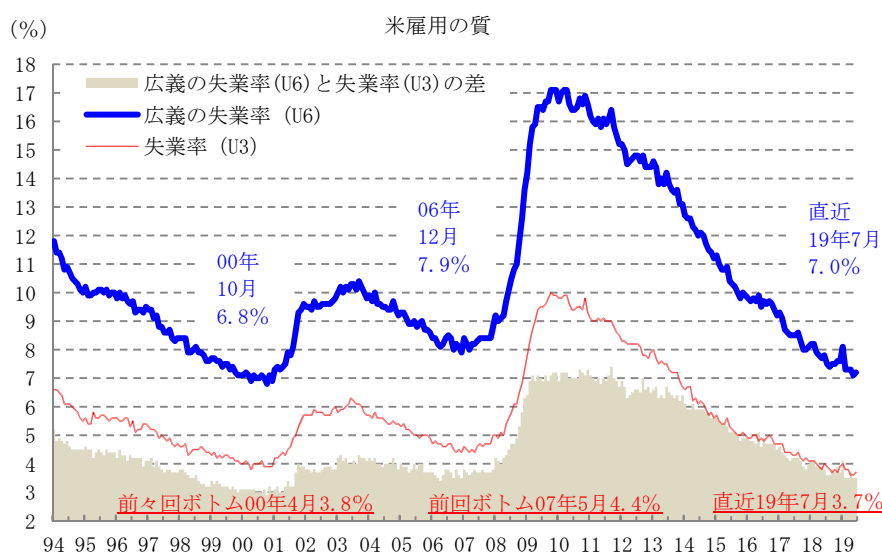
平均時給は、7月に前月比+0.3%（前月同+0.3%：速報の+0.2%から上方修正）、前年比+3.2%（前月同+3.1%）と市場予想を上回り、上昇傾向を維持している（市場予想前月比+0.2%、前年比+3.1%；筆者予想前月比+0.2%、前年比+3.1%）。労働市場の逼迫が持続するなか、生産性の伸びに見合った形で賃金は緩やかに上昇している。



7月の失業率(U3、家計調査)は、3.7%(前月3.7%)と前月から変わらず。市場予想中央値3.6%(筆者予想3.6%)を上回ったが、労働参加率が上昇した影響であり、いわゆる良い横ばいとなった。また、小数点第3位では3.712%(前月3.666%)と小幅上昇したが、仮に、労働参加率が6月と変わらなければ、失業率は3.563%に低下していた(1969年12月につけた3.533%程度の低い水準で推移)。

失業率(U3)はFRBが完全雇用と判断している4.4%を大幅に下回っている。さらに、広義の失業率(U6)は、7.0%(前月7.2%)と低下し、前回の景気拡大局面での最低値を下回っている。雇用が労働力人口の増加ペースを引き続き上回って拡大しており、失業率は低い水準で推移している。

失業率は、19年の経済成長(コンセンサス+2.6%)が潜在成長率(+1.8%)を上回ると予想されているなか、1969年12月につけた3.533%を下回る公算が大きい。同様に雇用は、緩やかなペースで減速すると予想する。



(注) U6: 通常の失業者に加えて、正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人や過去1年間に求職活動を行った人を失業者としてカウント

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。